

YOSAKOIソーラン祭り Communication Report



2024.9発行版



YOSAKOIソーラン祭りは、
高知県で開催される「よさこい祭り」の熱気に魅せられた若者たちにより
1992年、「街は舞台だ！日本は変わる」を合言葉に誕生しました。

参加10チーム参加者1000人
観客動員数20万人から始まったこの祭りは
回を追うごとにその勢いを増し続け
今では北海道内はもとより全国・海外からも注目を浴び
約2万6千人の参加者、200万人の観客を動員する
「北海道の初夏の風物詩」と言われるまでに成長しました。

「楽しそう」「かっこよく踊りたい」「地域をPRしよう」
そんな小さな想いが集まって成長したYOSAKOIソーラン祭りは
30年のときを経て、5日間のイベントとしてのみならず
そこに参加するチーム・参加者たちを中心に
人と地域の交流を生み出し続けています。

“人と地域に感動と元気を届ける”
これからも、このYOSAKOIソーラン祭りの理念を胸に
地域とともに歩みをすすめていきます。

CONTENTS

YOSAKOIソーラン祭りとは	02	チームインタビュー	22
〈踊る人〉	05	YOSAKOIソーラン祭りのひろがり	
〈支える人〉	07	北海道内のネットワーク	29
〈楽しむ人〉	09	道外・海外へのひろがり	31
YOSAKOIソーラン祭りの地域貢献	11	ヒストリー	33
賑わいづくり	13		
地域に密着した活動	15		
教育・福祉活動	17		
環境保全・エコ活動	19		
SDGs	21		

What is Yosakoi Soran Festival

街は舞台だ！

初夏の札幌の街が
踊り子たちの舞台となる5日間。

「手に鳴子を持って踊ること」
「曲にソーラン節のフレーズを入れること」

この2つが守られていれば踊りも曲もすべて自由。
全道・全国から集ったチームが、
街を舞台に個性豊かな演舞を披露します。
踊り子たちの情熱と、その熱気を体感しようと集まった観客たち。
溢れんばかりのエネルギーが街に賑わいをもたらします。



「イベント」としてのYOSAKOIソーラン祭り

全国一！ 260チーム
26,000人が参加

全道・全国各地から
踊り子たちが参加！
よさこい/YOSAKOI
の祭りでもっとも規模
の大きい祭りです。
※参加チームデータは
5ページに詳細



大通公園をはじめ
札幌市内約15か所が会場に

札幌の街中が会場
に。公園や道路など
普段は踊れない場
所が、踊り子たちの
舞台となります。
※会場データは7ペー
ジに詳細



0歳から82歳*まで
老若男女誰もが楽しむ

*2023年参加者
最年少・最年長

老若男女誰でも参
加できるのがこの祭り
の魅力。審査を受ける・受けないもチーム
の自由で、それぞれ
の楽しみ方で参加で
きます。



踊る・観る・食べる
期間中のイベントも充実

演舞以外のイベント
も人気。大通会場
「北のふーどパーク」は
全国のグルメが一堂
に会する、札幌グル
メイベントの先駆けで
す。



全国を代表する祭りと肩を並べる
観客動員 200万人

祭り5日間の観客動
員数はおよそ200万
人（2024年：210
万人）。街が祭りの
熱気に包まれます。
※観客データは9ペー
ジに詳細



経済波及効果 246億円
(2016年・北海道二十一世紀総合研究所調べ)

参加チーム・観客によ
る祭りの経済波及
効果は約246億円。
北海道の元気にか
かせない祭りとなっ
ています。



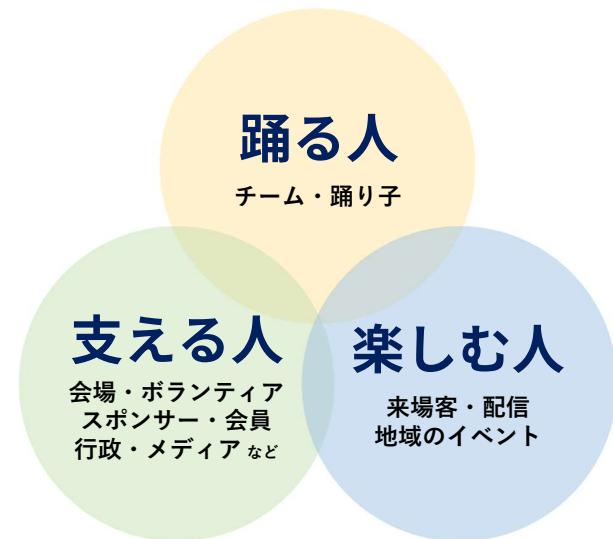
みんなでつくる 市民参加型の祭り

エネルギーッシュで華やかな演舞、
多くの人が賑わう会場、テレビで観るコンテスト…
そんなイメージで語られることも多い祭りですが、
どんな人たちが、どうやってこの祭りをつくっているのかは
意外と知られていません。



関わる皆でつくりあげる祭り

YOSAKOIソーラン祭りをつくるのは、この祭りに関わるすべての人。開催するための費用も、祭りを「支える人（スポンサー、賛助会員など）」「楽しむ人（観客）」「踊る人（参加チーム・参加者）」それぞれが負担をする「**参加者負担の原則**」に則り自主財源で運営しています。



予算で見るYOSAKOIソーラン祭り

会費・ロイヤリティ・その他

- 賛助会費（年間）1社：10万円
- ロイヤリティ・開催協力金
祭りの映像コマテツやグッズ等の販売による収益および演舞披露事業によるもの

参加費

- チーム参加費
一般：5万円 / 北海道外：3万円
企業：15万円 / ジュニア：無料 ほか
- 運営協力費
大人一人：2,000円 / 高校生以下：無料

総予算 (収入)

約1億9千万
円

補助金

協賛金

- オフィシャルスポンサー他 広告協賛
- 放映権料
- 共催費

チケット販売

- 大通パレード会場桟敷席 1席 1,000～3,000円
- 西8丁目メイプルステージ 1席 1,000～6,000円

踊る人・見る人・応援する人、関わる人皆が祭りをつくっています！



What is Yosakoi Soran Festival



コミュニティ
の生成



踊り子の
地域活動への参画



次世代の育成



賑わいづくり



世代や地域を
超えた交流



「YOSAKOIソーラン」の広がりは
6月に開催される本祭だけにとどまりません。
人と人が出会い生まれるリアルなコミュニケーション。
そこから生まれるエネルギーが、
地域の活力となっています。



5日間だけじゃない！

365日のひろがり

踊る人

祭りの最大の魅力は、エネルギーッシュで個性豊かなチームの演舞。老若男女誰もが主役となり、街を舞台に輝きます。

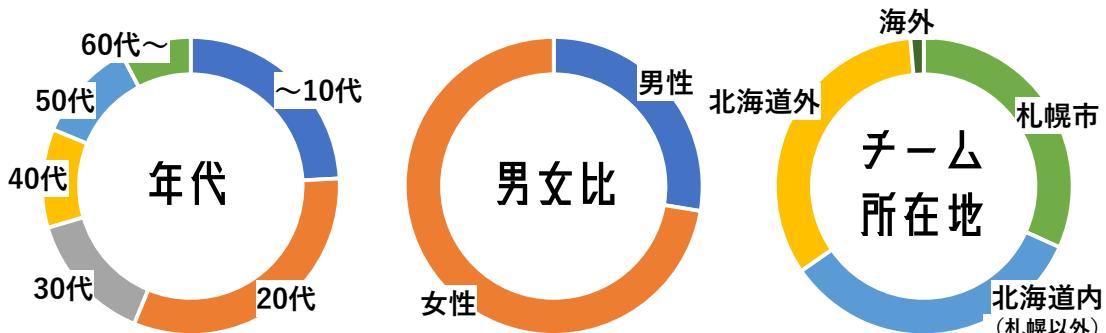


26,000人の主役たち

ルールを守れば誰もが参加することができるが、この祭りの大きな魅力のひとつ。街を舞台にはじける笑顔や真剣なまなざしをみせてくれるのは、プロのダンサーではありません。学生、主婦、サラリーマン、教師。やっと一人歩きを始めた子供からシニア世代まで、**職業や年齢、性別、国籍を超えた様々な人々**が集まります。



YOSAKOIソーラン祭り 参加者DATA



年間を通してのチーム活動

地域の新しいコミュニティとして存在感を発揮

チームは6月の祭りに参加するだけでなく、年間を通して活動しています。地元や各地の祭りに参加したり、福祉施設で踊りを披露するなどその活動は多岐にわたり、家庭や学校・職場とは違うコミュニティとして、世代を超えた交流や学びの場となっています。また、数十人、ときには100人を超えるメンバーを取りまとめ、様々な周囲の人と関係性を構築するなかで、地域の新しいリーダーの育成にもつながっています。リアルなコミュニケーションが希薄になりがちな現代社会において存在感を発揮しています。



《11ページからさらに詳しく》

地域全体でチーム同士のネットワークをつくり、交流や地域活動、次世代育成に取り組んでいるのは、北海道・YOSAKOIソーラン祭りならではの大きな特徴です！



参加者も祭りを創る仲間

年間を通しての意見・情報交換

参加者チームは踊るだけでなく、積極的に祭りづくりに参加しています。道内のエリアごとのチーム代表者を集めめた会議（年6回）や年1回の「参加者フォーラム」（参加チームの交流・研修の会）などを通し、祭りがどうすればもっと成長するのか、参加者には何ができるのか議論しています。

《29ページにさらに詳しく》



北海道を代表する文化 ・エンターテインメントとして成長

回を重ねるごとに、踊りそのものも進化を続けています。ファイナルコンテストに代表されるエンターテインメントとしてのYOSAKOIソーランの踊りは、「洞爺湖サミット」(2008)や「上海万博」(2010)「冬季アジア大会」(2017)といった国際的な大舞台で北海道を代表する文化として披露されてきました。また、道内各地で行われる様々なイベントでの披露や、教育旅行での体験など、地域を代表する文化として定着しています。



第2回（1993年）からつづく！ テレビ地上波生放送

祭りが全道に広がり参加チームが爆発的に増えた一因となったのが、道内各局でのテレビ放送。特に最終日のファイナルステージ

は大きな注目を集め、毎年高視聴率を記録しています。注目度と踊りのレベルの高さ、祭りのスケール感から、このステージを目指し全国から参加チームが集まっています。



当会ではYOSAKOIソーランのコンテンツを保護するため、「YOSAKOIソーラン」を商標登録しています。（詳細は10ページ）



支える人

祭りをつくるのは、地域社会のあらゆる人たち。市内各所に広がる会場はボランティアや企業など多くの人に支えられています。



「地域のみんな」でつくる祭り

YOSAKOIソーラン祭りは関わる人みんなでつくる祭り。開催するための費用も、祭りに携わるそれぞれが負担をする「参加者負担の原則」に則り自主財源で運営しています（3ページ記載）。もちろん、費用面だけではなく、様々な場面で多くの人が携わり、北海道を代表するこの祭りをつくっています。

多方
の方の
協力で祭りが
運営されて
います

祭りを支援する人
オフィシャル
スポンサー
・スポンサー
・賛助会員

祭りを広報する人
テレビ・新聞等
メディア
(広報委員会)

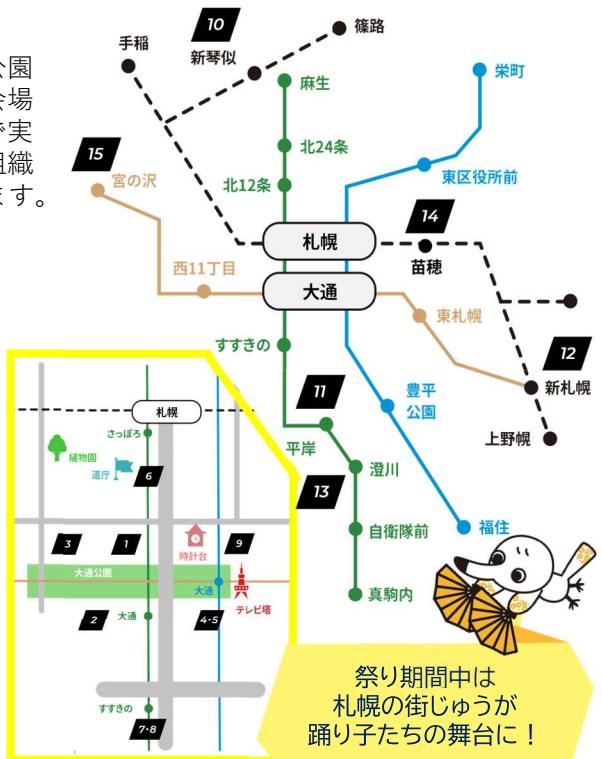
行政その他
関係機関
申請や協議
その他開催全般に
関わること

祭りを創る人
各関係業者の
皆さん



地域に祭りの賑わいを

祭りの会場は市内各所に広がります。メイン会場となる大通公園をはじめとする市内中心部以外にも、地域の特色を活かした会場が多数。意外と知らないのが、各会場は「**自主運営**」で実施されているということ。各会場はそれぞれに実行委員会を組織し、**費用やスタッフの手配なども含め自主運営**で開催しています。



祭り期間中は
札幌の街じゅうが
踊り子たちの舞台に！

※上記は2024年・第33回の開催会場です。

PICK UP! 祭りをつくり・支える若ものパワー

学生実行委員会

1992年、YOSAKOIソーラン祭りは「街は舞台だ！日本は変わる」を合言葉に学生たちの手によって誕生しました。祭りの成長と共に運営の在り方も変化してきましたが、メイン会場である大通の運営は今でも学生たちが担っています。
学生実行委員会は本祭の運営だけでなく年間を通して活動し、この祭りを支えています。



DATA

【団体名】YOSAKOIソーラン祭り学生実行委員会
【活動理念】「YOSAKOIソーラン祭りを通じて地域社会に貢献する」
【活動人数】 通常：約50名 / 本祭当日：約300名
【メンバー所属大学】
北海道大学／北海学園大学／札幌市立大学／藤女子大学／
北星学園大学／北海道教育大学 など



6月本祭

本祭に向けては、4つの班を組織して企画・運営にあたります。チームや観客の皆さんとの期待に応える舞台をつくるため、よりよい祭りを目指します。



祭りを象徴するメインステージの企画運営。セレモニーの企画・台本作成から、当日の舞台監督、MC、チーム・観客誘導などを行います。



札幌の目抜き通りを交通規制して行うメインパレード。複数のチームが同時に演舞するコース内で、地方車やチームの誘導、進行管理をしながら運営します。



祭りの審査の運営も学生実行委員会が担います。審査員の募集・抽選や当日の誘導・集計などの業務から、審査の在り方についての検討なども行います。



学生実行委員会の活動が円滑に進むための役割を担います。物・人の管理を行う事務部門と、活動の記録・発信をする広報部門に分かれています。

年間活動

6月の本祭以外にも、実行委員会の活動は多岐にわたります。年間の学びが、本祭の企画運営にも活かされています。



全道・全国の祭り

夏・秋には全道で行われる支部大会や、全国の祭りの運営に参加。祭り運営のノウハウを学ぶとともに、祭り同士の交流を促します。



YOSAKOIソーラン祭りに参加する仲間を増やすのも大切な活動。組織委員会や支部と協力しながら、ジュニア世代の育成や参加促進の活動に取り組んでいます。



協賛活動

本祭の設営費や年間の活動費用は、自ら協賛活動をして集めます。地域の企業を訪問して協賛のお願いをするとともに、祭り開催に向けた理解をいただくための活動です。



「さっぽろ雪まつり」「ミュンヘンクリスマス市」などにボランティアで参加。若ものが地域活動に参加し、ともに札幌を代表するイベントを盛り上げます。

楽しむ人

華やかでエnergicな踊りも、それを観て楽しむひとがいてこそ。楽しむ場所や方法もひろがっています。



200万人の観客

祭りを楽しむのは、もちろん参加者だけではありません。祭り期間中の来場者は約200万人。各会場には多くの市民・観光客が足を運び、エnergicなチームの演舞を楽しんでいます。メイン会場である大通公園には、メインステージを観覧できる「特別観覧席」「アリーナ席」とパレードを観覧できる「桟敷席」が設置され、座席でゆっくりと演舞を楽しむことができます。また、「北のふーどパーク」などのグルメが楽しめる企画や祭りの公式グッズも人気。「観る”以外の楽しみ方もひろがっています。



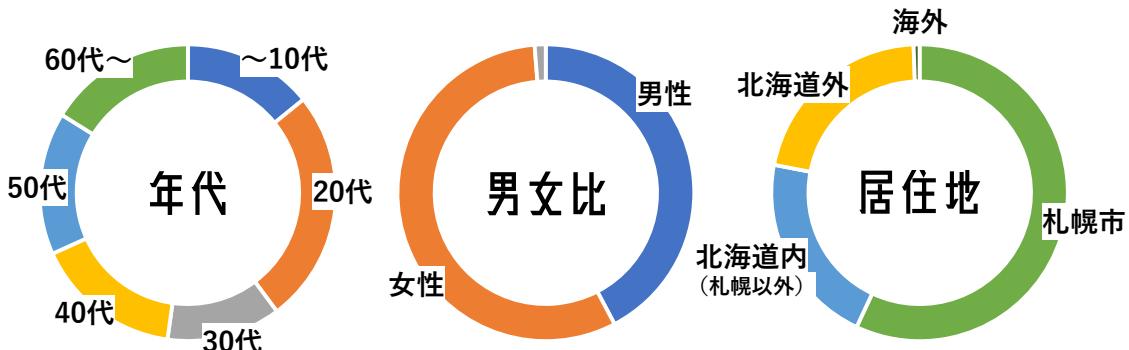
大通以外の市内各会場は観覧無料。演舞を間近に楽しめます。



「北のふーどパーク」には全道・全国の味覚が集合



YOSAKOIソーラン祭り来場者DATA



※2024年・第33回YOSAKOIソーラン祭り 大通会場内にて来場者アンケートを実施（回答：751名）

オンラインで世界各地でも

近年は、祭りの楽しみ方も拡がってきています。映像もその一つ。祭り会場で味わうリアルな踊りのエネルギーとは異なりますが、いつ・どこでも楽しめるのが映像のいいところ。期間中はメインステージの様子のライブ配信や世界各地から参加可能な「映像参加企画」など、様々な動画を通して、全世界にYOSAKOIソーランの魅力を発信しています。

期間中のYouTube
ライブ配信は
約20万再生

※ソーランナイト・
ファイナルステージを除く
(hulu独占配信)



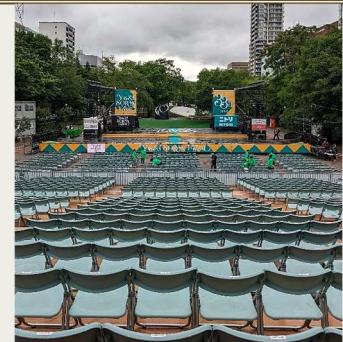
全道・全国に広がる祭りのにぎわい

6月の本祭だけではなく、年間を通してYOSAKOIソーランの演舞は全道・全国で披露されています。特に道内ではあらゆるイベント・祭りなどに登場し、札幌に足を運べない人も、地元で演舞を楽しむことができます。また、イベントに呼ばれて出演するだけでなく、「支部大会」などの祭りを各地で開催したり、チームが祭りの運営や清掃のボランティアをするなど、祭りを通した地域との交流も育んでいます。



開催協力金制度と賛助会員

YOSAKOIソーラン祭りは、地域の文化・エンターテインメントのコンテンツの一つとして、年間を通して多くの場所で活用されています。めまぐるしく時代が変化するなか、これからも安定的に祭りを継続・発展させていくため、祭りに関わる様々な方がそれぞれの立場で負担をし、皆で祭りを支えていくための仕組みづくりをしています。



開催協力金制度

「参加者負担の原則」により
自主財源で運営
されています



一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会では「YOSAKOIソーラン」を商標として登録しており、これを活用する事業者の皆さんにも応分の負担をいただき、財源の一つとする仕組みづくりをいたしました。「YOSAKOIソーラン」が活用される営利・集客を目的とした事業においては、実施事業者の皆さんより祭りへの「開催協力金」として権利使用料を納めていただく制度を設けております。

《開催協力金制度》

●「YOSAKOIソーラン」は当会の登録商標です。YOSAKOIソーランに関する事業の実施や商品制作の際には「開催協力金」が発生し、実施事業者の皆さんにご負担いただきます。

●開催協力金は出演チームへの謝礼（税込）に対して10%とします。
●祭りを通して地域社会に元気と感動を届けることがこの祭りの使命です。よって、各地域での祭り・イベント開催を応援するために、対象となる事業を限定いたします。

※対象となるのは、"YOSAKOIソーラン"が活用される営利・集客を目的とした事業のみです。地域の祭りや福祉施設での演舞披露や、幼稚園・学校等での教育に関わる事業については、これまで通り開催協力金は発生しません。

※ただし、1イベントにおいて6チーム以上出演の場合は、別途組織委員会賛助会員への入会が基本となります。

賛助会員

YOSAKOIソーラン祭りの事業に賛同し、応援賛助いただける「賛助会員」制度を設けております。

《一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 賛助会員》

【対象】・祭りの趣旨に賛同し、支援していただける企業・団体・個人（個人事業主）
・YOSAKOIソーランチームが出演する地域の祭りやイベントにおいて6チーム以上出演の場合、主催者は原則入会をお願いします。

【年会費】企業・団体 100,000円 / 個人 20,000円

【特典】公認業者の表示／公式サイトへのPRページの掲載（サポート商店街）
／参加要綱への会員紹介掲載／公式ガイドブックへの会員名掲載



開催協力金制度・賛助会員についての詳細は事務局までお問い合わせください。

▼開催協力金制度についてはこちら





「街は舞台だ！」から 「FOR THE PEOPLE & HOMETOWN!」へ

～地域とともに歩む祭り～

10チームから始まった祭りが、30年以上も続き、今では全国に祭りの輪が広がっています。なぜ、こんなにもこの祭り・文化が愛され、続けてきたのか。

それは、この祭りが人と人とのつなぎ地域の活力になってきたからだと私たちは考えています。

ただの踊りのイベントというだけでは、ここまでにはならなかっただろう。

これまでこの祭りに参加してきた皆さんが踊りを楽しみながら、

踊りを通して人を笑顔にしたり、踊り以外の活動でも地域を盛り上げてきたからこそ
今のYOSAKOIソーランがつくられたのだと思います。

30年を経て、祭りがこの先の30年、50年とさらに続していくためには、
より地域に目を向け、地域とともに歩むことが大切だと強く感じています。
YOSAKOIソーラン祭りの理念は「人と地域に感動と元気を届ける」こと。
皆さんとともに作ってきた祭りを未来へ。



新しいかたちのコミュニティとして 地域で果たす役割

YOSAKOIソーラン祭りの基盤となる参加者＝チーム。

「かっこよく踊りたい」「おもしろそう」「仲間がほしい」「まちを盛り上げたい」

そんな想いが集まって誕生したチームが、新しいコミュニティとして、地域で存在感を発揮しています。

～チームが地域で担う役割～

地域の賑わい創出

北海道の祭りにおいては、YOSAKOIソーランの演舞が賑わいの中心を担うことも少なくありません。また、踊るだけではなく、運営の手伝いをすることも、そして、今ではYOSAKOIソーランチーム自身が街を活気付けようとイベント（祭り）を主催することも増えてきました。

コミュニティ生成と リーダーの育成

各チームは一つの目的のためにつくられるコミュニティー。職場や学校、家庭だけではない場所が幅広い価値観を育て、グループを運営するためにリーダーが育てられています。この新しい形のコミュニティーが、今では地域のまちづくり・教育・福祉など様々な場面で活躍しています。

祭りの審査に 地域貢献点を導入

毎年大きな注目を集める「審査」。祭りの象徴ともいえる「YOSAKOIソーラン大賞」を受賞するチームは、エンターテインメントとしての踊りのすばらしさはもちろん、地域に愛され、応援されるチームであってほしいとの想いから、第32回（2023年）、審査に『地域貢献点』を導入しました。

祭り当日に審査員によって行われる「演舞審査」に加えて、各チームから提出される地域貢献活動調査票によって事前に評価される「地域貢献点」によって、YOSAKOIソーラン大賞が決定します。



審査員による演舞評価点

+

事前提出調書による地域貢献点

地域貢献点の導入によって、チームの地域活動が可視化され、その姿が具体的に。13~20ページでは、この1年間で行われた北海道内チームの様々な活動についてご紹介します。



賑わい
創出



地域
密着



教育
福祉



環境
保全



【以下の資料に基づき集計・紹介】

- 第33回YOSAKOIソーラン祭り 地域貢献活動調査票
- 2023年度第2期・2024年度第1期 YOSAKOIソーラン演舞実績報告書

※北海道内チームのみ抜粋 / ※調査対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日

賑わいづくり

全道・全国の数多くの祭りや地域のイベントでYOSAKOI ソーランが披露され、祭りの賑わいになくてはならないものになっています。また、地域の賑わいづくりのためにチームが祭りを創設・主催することも増えてきました。



YOSAKOIソーランの演舞が行われた祭り・イベントの数

道内 **479** の祭り・イベント

演舞が披露された地域

道内 **69** 市町村

北海道内のイベント
の盛り上げには
かかせない存在に！



※いづれも2023年4月～2024年3月の集計／※私的な催し（企業の宴会など）を除く、原則一般来場者がいるオープンな催しのみカウント

Case.1 まちの賑わいをチームがつくりだす（恵庭紅鴉）

わくわくフェスティバルを開催

発足当初から続けている自主開催の祭り「えにわYOSAKOIソーランわくわくフェスティバル」。30を超えるチームと約5,000名の観客が来場し、YOSAKOIソーランを楽しんでいます。地元チームや恵庭青少年リーダー育成会つくしの会の協力のもと、恵庭を盛り上げています。地元への恩返しとして、こども縁日「えにわっ子まつり」も開催。



地域といっしょに

自主開催の祭り以外にも、地元商工会議所や青年会議所のイベントに演舞・運営・出店などで継続的に参加したり、YOSAKOIソーラン祭り前に地元市民向けの演舞披露の場を設けるなど、地域と関係性を築きながら賑わいづくりに貢献しています。



▲恵庭YEGフェスティバル（左）では地方車の派遣や、花火大会（右）では売店出店も行う

〈TeamProfile〉

恵庭紅鴉（えにわべにがらす）／恵庭市
1999年結成。「ひとの魅力は、まちの魅力」をモットーに、地元恵庭では賑わいの担い手となることを、市外では花のまち恵庭とその魅力を届けることを目的として活動。

Case.2 全国各地の祭りに若者のパワーを（北海道大学”縁”）

地元住民との交流や運営手伝いも

全道・全国の祭りに年間で50か所以上参加。演舞を披露するだけでなく、各祭りにおいて運営・撤収の手伝いや、地元参加者・住民との交流を積極的に行ってています。

（2023年は道内では雄武町、七飯町、白老町、室蘭市、千歳市、安平町、歌志内市、赤平町。長万部町など。ほか、愛知、三重、石川、滋賀、熊本、山口、福井、岐阜、静岡、宮崎、大阪、茨城、宮城に遠征）



▲歌志内市民祭り（7/8）に合わせて中学校を訪問。少子高齢化などの課題を抱える地域で中学生と大学生の交流事業を実施。祭りでは合同ステージを披露した。



▲安平町では祭り参加だけでなく年間を通してした児童との交流も



▲祭りに参加する際は撤収作業の手伝いや清掃活動も実施

〈Team Profile〉

北海道大学”縁”（ほっかいどうだいがくえん）／札幌市北区
1998年結成。「周りを巻き込みゴキゲンな流れをつくる」をコンセプトに活動。各地での祭りのみならず、地元エリアのまちづくりにも積極的に参加。

Case.3 地域の人に元気と「祭り」の楽しさを（石狩流星海）

石狩カムチエ祭りを開催

コロナ禍で多くの祭りやイベントが中止となるなか「石狩に祭りの活気を取り戻したい」「祭りを知らない子供たちにその楽しさを伝えたい」との思いから、2022年、チームで「石狩カムチエ祭り」を主催。地元商店にも協力を得て、様々なチーム・パフォーマンス団体が参加するなど、数千人の来場者が集まる祭りとなりました。2023年以降も継続して開催しています。



〈TeamProfile〉

石狩流星海（いしかりりゅうせいかい）／石狩市
1996年結成。石狩の街と人に元気・活気を届けることを軸に活動。4歳から80歳までのメンバーが世代を超えて団結している。2005年「いしかり観光大使」第1号に認定。

Case.4 道北のYOSAKOIソーランを盛り上げる（和凜-KARIN-）

稚内・和寒で祭りを開催

2011年から和寒町で「なまら踊るべっ！！かたかごSORANフェスティバル」を主催。また2023年にかつて実施されていた「わっかないソーラン祭り」を「Yam WakkaNay SORAN The Northern most」として復活。子どもたちへのレクチャーなど道北での賑わいづくりと普及振興に取り組んでいます。



▲最北の地・稚内北防波堤ドーム公園でのイベント



▲和寒では町で開催される「全日本玉入れ選手権」にちなんだイベントも恒例に

〈TeamProfile〉

和凜-KARIN-（かりん）／和寒町・稚内市
1998年結成。2022年、「鳴呼ワットサム」と「わっかない最北烈風隊」が一つとなり現在のチームに。YOSAKOIソーランの魅力発信と共に地域活性化を目的として活動。

Case.5 全国各地との交流の懸け橋に（平岸天神）

祭りを代表するチームとして全国へ

名古屋市で開催されている「にっぽんと真ん中祭り」では、祭り立ち上げの第1回から連続参加し、北海道のYOSAKOIソーランの熱気を伝え続けています。また、70回の記念大会を迎えた高知「よさこい祭り」にも単独チームとして2度目の参加。北海道と全国の祭りの交流を担っています。



▲2023年・第70回よさこい祭り



▲にっぽんと真ん中祭り

〈TeamProfile〉

平岸天神（ひらぎしてんじん）／札幌市豊平区
1992年結成。保存会として通年活動し、地元平岸地区の地域振興や青少年の育成、また北海道の新たな文化の担い手として全国・世界へ「ソーラン踊り」を発信している。

CHECK! 踊るだけじゃない！賑わいづくりのお手伝い

多くのチームが運営や片付けに参加

各地で開催される祭りやイベント。YOSAKOIソーランチームは演舞で参加することはもちろん、多くのチームが積極的に運営に携わったり、撤収や清掃の手伝いなどをしています。運営側にまわることで、「日ごろの自分たちの活動が様々な方に支えられていることを改めて実感した」という声も多く聞かれます。



地域に密着した活動



地元エリアでの活動に幅広く取り組むチームも多くあります。地元イベントでの演舞に限らず、祭りやイベントの運営・清掃などや、踊りと関係のない地域行事にも積極的に参加し、地域との交流を深め、地域での役割を担っています。

自治体首長から「パートナー推薦」を受けたチーム（道内）

25 チーム・19 市町
※札幌市を除く

「パートナー推薦」とは..

各チームの地域活動が地域と連携し認められた活動であることの証として、地域貢献点の審査において「地域活動パートナー推薦書」制度を設けています。左記のほか、北海道外でも多くのチームが首長の推薦を得ています！

歴代チーム内婚姻数
番外編 453 組

チーム所属のために移住した人
123 人

地域への定住や
移住に寄与！

※参考数字・道内のみ

Case.1 地元・新琴似を代表する団体として（新琴似天舞龍神）

地元地域での演舞を積極的に

新琴似エリアや北区の夏祭りに毎年15か所ほど参加し、地域住民に演舞を披露。連合町内会と連携した子どもたちのダンスコンテスト企画なども実施しています。地域の福祉施設10か所以上で演舞をするなど、地元での活動を大切にしています。



▲地元町内会の祭りでの演舞。
地域の夏祭りには積極的に参加



▲地域の福祉施設での演舞

地域の次世代育成への取り組み

地元の小学校への演舞指導や、中学校の「地域を学ぶ」授業のサポートも実施。また、児童養護施設に暮らす子どもたちをチームメンバーとして受け入れしたり、ジュニアメンバーが主体となったイベント



◀Jr.天舞祭は地域の小中学校の児童を招いて開催

〈TeamProfile〉

新琴似天舞龍神（しんことてんぶりゅうじん）／札幌市北区
1996年結成。「地域の活性化」「青少年の健全育成」「感動の共有」を3本柱とし活動。地元新琴似をはじめ、道内・道外各地で年間を通して広く活動している。

Case.2 学生ならではの“地域密着”（テスク&祭人）

“ホームタウン”で存在感を發揮

北海道大学がある札幌市北区の「鉄西（てっせい）地区」。チームは長年にわたり地域との交流を続け、2007年からこの地区の「鉄西まちづくり学生推進委員会」を担っています。毎年秋には「鉄西秋まつり」を企画・運営。そのほかにも地区内の小学校の宿泊行事サポート、子どもたちと街歩きをしてつくる「子ども安全マップ」の作成など多岐にわたる活動を実施。まちづくりセンターや連合町内会といった行政・住民団体と協力し、大きな役割を楽しみながら担っています。



▲秋祭りは一年の集大成。交流を重ねる道内各地のブースも登場



▲地域の小学校のスキー授業のボランティアも実施

〈TeamProfile〉

テスク&祭人（てすくあんどまつりんちゅ）／札幌市北区
2004年結成。「笑顔と元気」をモットーに、地元地域での活動に加え、全道各地の祭りのボランティアにも参加する「お祭りサークル」。

Case.3 地域とひとつになつた会場運営（澄川精進螢会）

地域の応援を得て手作りの会場を

長年澄川で活動を続けるチームは、地区連合会や商工会のイベントに積極的に参加し、出店なども実施。2023年、13年ぶりの復活となった澄川会場も、地域の理解とサポートを得て、アットホームな会場となりました。地域の応援を力に、地元に祭りの元気を還元しています。



▲2023年・第32回の本祭で13年ぶりの開催となった澄川会場。地元の公園を新たに会場とした



▲会場運営はチームスタッフのほか、近隣の高校2校や消防団など多くの団体が協力

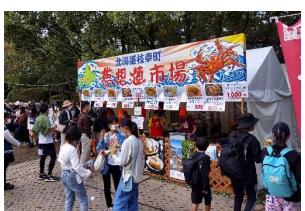
〈TeamProfile〉

澄川精進螢会（すみかわしょうじんほたるかい）／札幌市南区
1996年結成。1997年の本祭初参加と共に澄川会場の運営も担う。子供から大人まで幅広い世代が参加し、地域の行事に積極的に参加している。

Case.5 地元・枝幸の魅力を全国でPR（夢想漣えさし）

祭りでのブース出店や物産展協力

地域に根差した団体として、三重県や茨城県、岐阜県などの祭りで演舞に加えて枝幸の特産品販売ブースを出店。各地で地元の魅力を伝えるほか、町や観光協会が札幌などで実施する物産展ではスタッフとしての協力も。2020年には「枝幸町ふるさと観光大使」第1号に任命され、活躍しています。



▲三重県津市「安濃津よさこい」でのブース出店は毎年大人気。毛ガニやホタテなどを提供している



▲札幌・オータムフェストの枝幸町ブースをメンバーがお手伝い

〈TeamProfile〉

夢想漣えさし（ゆめそうらんえさし）／枝幸郡枝幸町
1996年結成。「夢・想い・今、動き出そう！！」をコンセプトに活動。“海と故郷を一番感じるチーム”としてオホーツク枝幸町の魅力を伝えている。

Case.4 学生パワーで街に活力を（小樽商科大学“翔楽舞”）

地域のボランティアに積極参加

地元・小樽の活性化を目指し「小樽雪あかりの路」「ゆかた風鈴まつり」「ゴーストタウンサカイマチ」といった地域イベントにボランティアで協力。そのほかにも、除雪ボランティアや福祉施設や幼稚園での演舞、小学校でのレクチャーなど学生のエネルギーで街を盛り上げています。



▲小樽埠町通り商店街が開催するハロウィンホラー企画「ゴーストタウンサカイマチ」ではゾンビ扮して会場を盛り上げた



▲社会福祉協議会が実施する除雪ボランティア。この冬は計7回参加した。

〈TeamProfile〉

小樽商科大学“翔楽舞”（おたるしょうかだいがくしょうがくぶ）／小樽市
2007年結成。地元小樽に根差したチームを目指し活動。地域の学生チームとして演舞以外のボランティア活動を積極的に行っている。

CHECK! まちの魅力を発信！「大使」が活躍中

多くのチームが地域の魅力を発信する中、自治体から「大使」として認定されて活動するチームも。



石狩流星海

2005年「いしかり観光大使第一号」に任命され「鮭の街石狩」を各地でPR。

◀友好都市・沖縄県恩納村を訪問し演舞を披露（2023年）

夢想漣えさし

「枝幸町ふるさと応援大使」第1号に任命され全国各地で活躍しています。

▶高速バス「枝幸号」のラッピングにも登場する、地域の顔に



江別まっこええ&北海道情報大学

2024年「えべつ観光特使」に任命されました。

◀本祭には江別市のキャラクター「えべちゅん」と一緒に参加

教育・福祉活動



運動会や体育の授業など、多くの学校教育に取り入れられているYOSAKOIソーランの活動を参加チームがサポート。演舞指導や作品の貸し出しなどを行っています。また、福祉施設の慰問も数多く行われ、笑顔と元気を届けています。

学校・保育園・幼稚園等での
演舞披露や指導

60 件

福祉施設慰問回数

114 回



地域の老若男女に
元気をお届け！
笑顔が踊り子の励みに。

※新型コロナの影響で中断したままの交流が多くありますが、徐々に復活しています。今後、さらに活性化していくものと考えられます。

Case.1 社会福祉団体と連携した活動（劇団果実籠）

2つの地域貢献団体に加入

2歳から高校生、40歳以上の大人が所属する「劇団フルーツバスケット」。子どもたちの感受性を育むためにミュージカル活動とYOSAKOIソーランに取り組んでいます。劇団の社会貢献として地域福祉活動の向上を目指す「社会福祉協議会」や世界の子供達への奉仕活動を目的とする「キワニスクラブ」に加入し両団体のボランティア活動に積極的に参加しています。



演舞やミニミュージカルを各所で実施

ボランティア事業として、市内の老人福祉施設やサービス高齢住宅での歌唱やミニミュージカル、YOSAKOIソーラン演舞などを月1回程度実施。

地域の人々に笑顔を届けています。



►ミュージカルでは母子寡婦連合会と連携して母子家庭の親子を招待

TeamProfile

劇団果実籠（げきだんふる一つばすけっと）／札幌市中央区
1995年結成。「活きて生きる」をコンセプトに大好きな歌と踊りで世界中の大人たちに笑顔を、子どもたちにやる気エネルギーを届け、文化で地球平和を目指します。

Case.2 学校・保育園等での演舞指導（江別まっことええ&北海道情報大学）

複数の学校などの演舞指導

運動会でYOSAKOIソーランの演舞をする小学校や保育園・幼稚園に出向き、演舞を指導を実施。江別市内および札幌市の学校など4校で2020年から継続的に指導に当たっているほか、2024年からは新たな学校も追加。授業で指導にあたる先生たちにレクチャーをしたり、運動会にむけた演出の相談にも乗っています。また、現在、江別市生涯学習推進協議会からの依頼で「ジュニアまっことええ体験講座」という幼児～小学生を対象にした体験企画も準備しています（2024年10月実施予定）。



▲学校教員への指導には、在校生や卒業生のメンバーが参加



▲メンバーの家族など子どもたちが参加する遊びと踊りの会

TeamProfile

江別まっことええ & 北海道情報大学／江別市
(えべつまっことええあんどほっかいどうじょうほうだいがく)
1991年結成。YOSAKOIソーランを通して人・祭り・地域に笑顔と元気を届けることを目指し活動。2024年、江別市から「えべつ観光特使」に任命される。

Case.3 児童会館での継続的な交流・演舞会（海響）

体験会や定期的な訪問で児童と交流

2022年度から、新川小ミニ児童会館で演舞披露・YOSAKOI交流会を実施。100人以上の子どもたちや保護者などが参加しました。また、演舞会の実施だけでなく、メンバーが定期的に児童会館に赴きYOSAKOIやダンスを通して児童と交流を行う活動もボランティアとして行っています。



▲2023年10月14日開催の演舞披露およびYOSAKOI交流会。子どもたちに踊りをレクチャー



▲ミニ児童会館から送られた感謝のメッセージ

〈TeamProfile〉

海響（うみなり）／札幌市

2019年結成。「海と王道のソーラン節」をコンセプトにYOSAKOIソーランの魅力を発信。2023年度は上記のほか、幼稚園や福祉施設でも演舞披露・体験会を実施している。

Case.5 福祉協会との交流・イベント参加（北昴）

身障センターで公開練習を開催

2022年に開催された北海道身体障害者福祉協会のイベントに出演したことをきっかけに、「元気や迫力を利用者の方に届けてほしい」との想いを受けて、普段YOSAKOIソーランを生で観に行くことが難しい車いすの方や障害がある方を対象に公開練習会を実施。協会が主催するイベントにも継続して参加しています。



◀開催告知のチラシ
▼当日の様子



〈TeamProfile〉

北昴（きたさぶる）／札幌市

2014年結成。「集まる想い、心搖さぶる昴の響き」をチームコンセプトに、その瞬間その空間にいるすべての人的心を揺さぶるよさこいを追求している。

Case.4 大学生だからこそその社会貢献（北海道大学”縁”）

行政と連携した学習サポート事業

札幌市北区民センターとの連携事業として、北大生が地域の小学生に勉強を教える寺子屋事業「まなびの秘密基地with北海道大学”縁”」を2023年11月から月1回定期開催。児童の地域交流と地域事業の活性化を目的として、チームが提案する形でスタートし、回を追うごとに参加者も増えています。



◀開催告知のチラシ

▼勉強のサポートだけでなく、大学について話すことも。



〈Team Profile〉

北海道大学”縁”（ほっかいどうだいがくえん）／札幌市北区

1998年結成。「周りを巻き込みゴキゲンな流れをつくる」をコンセプトに活動。各地での祭りのみならず、地元エリアのまちづくりにも積極的に参加。

CHECK! 多くのチームが実施! 元気と笑顔をお届け

福祉施設を訪問し演舞や交流を実施

全道各地で、たくさんのチームが福祉施設や教育施設を訪問して演舞を披露しています。

祭り会場まで踊りを観に来ることができない方たちにもYOSAKOIソーランのエネルギーをお届け。演舞の披露だけでなく、入居者の方たちとの交流や、施設のイベントのお手伝いなどを継続的に行っているチームも多くあります。



CHECK! 福祉施設のみなさんを祭りにご招待

本祭でも実行委員会が福祉施設の利用者の方々を会場にご招待しています。札幌市保健福祉局を通じて、希望する施設に大通パレード会場棧敷席チケットをプレゼントする取り組みです。

環境保全・エコ活動

祭り前後のゴミ拾いや清掃活動に多くのチームが取り組んでいます。また、それだけでなく、年間を通して自治体の清掃活動に参加しているチームも。それ以外にも、衣装や小道具のリユースなど、サステナブルな取り組みも増えています。



清掃活動を行った
道内チームの割合

46 %

祭りに参加した後の演舞会場や、日ごろの練習会場でのチームごとの清掃活動のほか、他チームや団体と協働して行う清掃活動も実施されています。

若い世代を中心に
社会の一員として
環境問題や地域の美化活動への
関心が高まっています！



Case.1 清掃活動「クリーン・キャンバス21」を運営 (ExclamatioN)

市民と行政が協働するプロジェクト

2001年から帯広市が推進している市民による共同清掃活動「クリーン・キャンバス21」。会員の個人・団体が各自で行う月1回の清掃活動に加え、年2回の全体清掃が実施されます。チームは2012年から帯広青年会議所に代わり事務局を担い、実行委員会議の開催、事業計画の立案や会計、広報誌の作成、全体清掃の仕切りなどを行っています。



▲全体清掃の受付をするメンバー

チーム単独でも継続する清掃活動

チーム単独でも、クリーンファミリーの一員として、5月から10月まで、所属するエリア内の清掃活動を毎月一回行っています。

同プロジェクトには多くの個人・企業が参加し、現在の会員数は約3,000人。“自分たちだけができる”活動のみならず、地域の行政や市民をつなぐプロジェクトに主体的に取り組むことで地域に貢献しています。

〈TeamProfile〉

ExclamatioN（えくすくらめーしょん）／帯広市
1997年結成。「YOSAKOIソーラン祭り参加で得る知識や経験を地元・十勝・帯広で活かして盛り上げる」をコンセプトに、市民ミュージカルなど幅広く活動。

Case.2 Hokkaido海のクリーンアップ大作戦！

15チームが海岸・河川清掃に参加

北海道SDGs推進プラットフォームが開催する「海のクリーンアップ大作戦」。「できることから始める、そして北海道の海をみんなでキレイにしていくことを推進していく」ために、海や川などの清掃活動を定期的に実施しています。2024年は5月15日・18日に全道47か所で同時開催され、11,416人が参加。YOSAKOIソーラン祭りからは5会場に15チーム199名が参加し、海水浴場や河川敷の清掃に取り組みました。

※本活動は当レポートのチーム活動調査期間と異なりますが（2024年5月実施）、祭り全体の取り組みであるためこちらでご紹介します。



〈参加チーム〉 ※50音順
藍&MOEホールディングス／粹～IKI～北海学園大学／江別まっこええ＆北海道情報大学／和凜-KARIN-/コカ・コラ札幌国際大学／札幌大学Lafête／テスク＆祭人／ど感動／藤・北大＆ホンダカーズ北海道／北星学園大学～廻～／北海道医療大学～桜雅～／北海道科学大学～相羅～／北海道大學”縁”／北海道文教大学～陽燕～／酪農学園大学

Case.3 地域いったいとなつた「花づくり」(平取義経なるこ会)

町主催の花の植栽事業への参加

国道237号線沿いを花で彩る「義経街道花の応援団」に2002年から継続参加。国道沿いの花壇をチームとしてエリアを受け持ち、毎年春に花を植え、草取りをし、秋に片づけるという活動を一年を通して行っています。花づくりを通して地域コミュニティの輪を広げながら、広域的な美化活動に取り組んでいます。



〈TeamProfile〉

平取義経なるこ会（ひらとりよしつねなるこかい）／沙流郡平取町 1995年結成。地域のチームとして長く活動を続け、現在は日高管内で唯一の本祭参加チームでもある。2019年には平取町より地域振興功労賞を受賞。

CHECK! もっとみんなで! 地域の清掃活動に参加

様々な地域団体と一緒に活動

チーム単独での清掃活動はもちろん、地域で行われる清掃プロジェクトに参加するチームもあります。他の地域団体との交流にもつながっています。



▲青年センター主催「青年戦隊クリーンレンジャー☆」(函館躍魂いさり火/函館学生連合～息吹～)



▲網走市観光協会主催「網走湖クリーン作戦」(東京農業大学「農天揆」)



▲北海道コカ・コーラボトリング主催「あしりべつ川清掃」(コカ・コーラ札幌国際大学)



▲地域の子ども団体「SAFY」と合同での清掃活動 (YOSAKOIソーランチーム傾徳)

Case.4 キレイな大通で チーム・観客を迎える

札幌市内チームが合同で清掃活動

YOSAKOIソーラン祭り本祭直前の週末、メイン会場となる大通公園では毎年参加チームによる清掃活動が行われています。「きれいな大通公園で全国からの参加チームや観客たちを迎えよう」という想いで、2000年頃から約25年実施。札幌の支部が主催し、2024年は28チーム・343名の踊り子が参加しました。踊り子たちはゴミ袋を手に、大通公園1~10丁目までを清掃しました。

※本活動は当レポートのチーム活動調査期間と異なりますが（2024年6月実施）、祭り全体の取り組みであるためこちらでご紹介します。



▲全員でテレビ塔の下に集合してから出発

CHECK! ひと工夫! 作品づくりにエコな取り組み

衣装や小物のリユース・リメイク

多くのチームが毎年演舞作品を新しくつくっています。それに伴い、衣装や道具類も変更になるため、すべてを新しくすると多くの素材や費用が必要に。“もったいない精神”でエコな取り組みもひろがっています。

《取り組みの例》

- 古い衣装をリメイクして手づくり
- 衣装の小物は同じものを使う
- 退会するメンバーの衣装やサイズアウトしたものをチームで買い取り、新メンバーに提供
- 演舞作品づくりのサイクルを複数年に
- 小道具にエコ素材を使用
- 手作り地方車のパネルを継続利用
- 資料のペーパーレス化

など



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

YOSAKOIソーラン祭りのSDGs

祭りの誕生から30年以上。社会は大きく変化し、「SDGs」は様々なコミュニティへに不可避なテーマとなりました。YOSAKOIソーラン祭りも社会の一員として、祭りや私たちのコミュニティを通して一つ一つの課題に取り組んでいきます。

パートナーシップで課題解決に挑戦 ～SDGsパートナー制度～



YOSAKOIソーラン祭りの考えるSDGsに関する取り組みに賛同いただき、ご協力を頂ける企業・団体とパートナーシップを提携する「SDGsパートナー」を2023年に創設しました。自分たちの日ごろの活動はもちろん、多くの皆様とともに課題解決に取り組むことを目指します。

《YOSAKOIソーラン祭りSDGsパートナー第1号》

株式会社トドック電力様

- 大通公園会場使用電力の「CO2排出実質ゼロ」
- 地方車の発電機は次世代燃料を使用

非化石証書を活用し大通公園会場内で使用する電力の、CO2排出実質ゼロを実現したほか、次世代燃料（リニューアブルディーゼル）を用いて、パレードで使用する発電機から排出されるCO2を削減しました。



▲左・2023年のパートナーシップ証書授与式
右・大通会場の地方車

《SDGsパートナーについて》

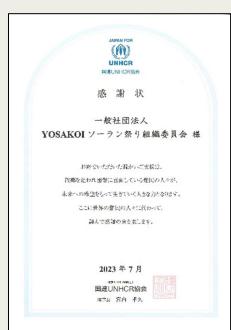
YOSAKOIソーラン祭りの考えるSDGsに関する取り組みに賛同いただき、ご協力を頂ける企業や団体の皆様

【内容】祭りを通して実施できるSDGsに関する取り組みを、ゴール、またその中でもカテゴリーごとに分け、協力して目標達成に向け活動します。活動内容についてはパートナー団体と協議の上、決定します。

難民支援および 被災地支援 募金活動



2022年から3年連続で、祭り会場にてUNHCR・国連難民支援キャンペーンを実施。会場では多くの方にブースにお立ち寄りいただき、難民支援の啓発を行いました。



また、2024年は参加チームを中心に能登半島地震の支援金を募集したほか、大通会場内の4か所に、4月に発生した台湾東部沖地震災害の義援金チャリティーボックスを設置。集まった義援金を日本赤十字社に託しました。

こどもたちへの SDGs教育



2023年9月のジュニアキャンプでは、参加した小中学生約60名と大学生がいっしょになって間伐材を使った薪づくりを通して里山のはたらきを学んだり、「SDGsすごろく」づくりを通して自分にできる行動について考えました。



ボトルtoボトルの 取り組み



2023年・第32回では北海道コカ・コーラボトリング株式会社様の協力により「ボトルtoボトル」の取り組みを大通会場で実施。PRブースを設置し、会場内で回収した全ての使用済みPETボトルを、コカ・コーラで販売する飲料用PETボトルとしてリサイクルしました。



▲大通会場に設置した「リバースベンディングマシン」

TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）

かっこかり

各地で育んできた交流が 地域を盛り上げる力になる

舞灯雄武（雄武町） 会長 関岡 修さん

95年かな、テレビで見ておもしろいなと思ったのが最初。当時商工会の青年部で、「YOSAKOIソーランってあるんだけどどうだべな」という話をしたんだけど、まだブームになる前で、「そしたらもの」って言われて、一回断念したんだよね。それから2年くらい、すっかりブームになっていて、イベントにYOSAKOIを呼ぶっていう話になったのよ。「呼ぶんだったら自分でやらないのか」と反対したんだけど。結構金もかかったんだわ。それをチーム立ち上げに使っていれば、って俺はもうぶんむくれよ。それで飲み屋にいたら、ママが「お前がやるんだったら協力するぞ」という、おじさんたち3人を紹介してくれて。観光協会や役場の人。その3人と、嫁さんと、俺。それから飲み屋のママと、その友だち二人。8人集まって、一人5000円出して、高知の工房から4万円分鳴子を買った。そこから始まったんだ。

98年の1月に初練習をしたときには、保育園児から70代まで100人くらい集まった。その年は雄武の産業まつりでお披露目で、支部大会にも出た。で、翌年いざ札幌出ようってなったら、どうやって出たらいいか、何にもわかんないんだよ。で、札幌で飲み屋をやってたママに――

全部飲み屋じゃないですか！笑

そうなんだよ（笑）。で、そのままお客様に新琴似（天舞龍神）の誰かが来てるってなってよ。全部教えてもらった。まずは地方（車）がなきゃならん、って札幌の天舞の事務所に行って地方の作り方を教えてもらったり、いろいろ紹介してもらったよ。



▲第8回（1999年）初参加



▲赤い衣装とうちわがトレードマーク

それがもうすぐ30年。

町の人からは「お前らよく頑張って続けてるな」と言われるんだけど。好きだからさ、基本的には。俺はいつも言うんだけど、YOSAKOIソーランは、楽しいんだよ。踊る側だけじゃなくて、観る側も楽しんでもらいたいのさ。だから、祭りらしい雰囲気、楽しさを何よりも大切にしてる。「あんたら見ると楽しそうでいいね」と言ってくれたらいいかなと思ってやっているからさ。

積み重ねた交流が町を盛り上げる

ずっと続けてきて、地域の人たちの受け止めは？

俺が感じる限りでは、いま踊っているやつらを認めてくれているな、と。「舞灯雄武」として認知されているなど。例えば、町内のイベントに舞灯雄武が出ることで、ほかのチームも来てくれる。これ、舞灯が無かつたら出でくれなかつたと思うんだよ。

舞灯が交流を続けてきたから、雄武に来てくれる。

そう。ビアパーティー（※写真）も、利益のためでなく、チームがどんなところに踊りに行って、どういう人たちと交流しているのか、というアピールの場なのさ。そこが一番重要なかな。ただ行って踊って楽しかった、ではなく交流



持るのがYOSAKOIのいいところだとおもうんだよね。イベント行きました・踊りました・さようなら、じゃなくて。そこの実行委員会と交流して、「また」っていつ帰ってこれるようなチームでありたい。



▲毎年2月に開催しているビアパーティー。各地からチームが参加し演舞を披露する。



▲産業まつりに参加したチームとの記念撮影

舞灯雄武の“町おこし”

今まで町のPRのためにYOSAKOIをやるんじゃなくて、自分たちが楽しくて見ている人が楽しんでくれたらいいっていうスタイルでやってたんだけど、今となって、町おこしをもっと真剣にやらなきゃな、って思ってる。

いま、地元がイベントに関して「舞灯雄武がないとダメだ」となってるからさ。そういう認識になったことで、これから先チームがちょっとでも地元の力になれるなんなら、まだまだ頑張っていこうかなって。ビジョンとしては、年に1回2回でもいいから（皆が地元に）帰ってきたくなるような祭りをつくるべ、って。そういうふうに思ってもらえるような“町おこし”をしていきたい。

地域の「文化」へ

俺はこれから先YOSAKOIソーランはさ、もっと身近な祭りになってもらいたいっていうのがあって。もうちょっと裾野を広げるというか、幅広く集めることを考えた方がいい。地域のチームをいかに参加させるかということ。昔テレビのインタビューを受けたときにさ、「YOSAKOIソーラン祭りは予選のない甲子園だ」と言つたんだよな。予選ないじゃん。あんな大きなステージで踊れることなんてなかなかない。だから参加したほうがいいと思うんだよ。

この祭りは「伝統と文化」とよく言ってたけど、今まで「文化」にはならないだろうな。伝統にはなるかもしれないけど。地元企業や商店街が前面的に応援するような、地域のチームがどんどん出てきてくれると、文化になっていくんじゃないかな。ようは盆踊りだよ。文化ってのは。まだまださ。50年100年やってるわけじゃないから。やり続けることが大事。これな、それが一番大事！まだ30年。「地域をあげて」「町をあげて」がもっと集まつたら、もっともっと文化になっていくんじゃないかな。

PROFILE

〈チーム：舞灯雄武（まいらいとおうむ）〉
1997年結成。1999年、よりYOSAKOIソーラン祭りに参加。地元の祭りはもちろん、道内・道外各地の祭りに参加し交流の輪を広げる。2008年に新設された「北海道知事特別賞」の初年度受賞チーム。

〈回答者：関岡修さん〉

1959年、釧路市出身。1984年より雄武町在住。
オホーツク支部では副支部長を務める。



TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）
かっこかり

祭りで得る知識と経験、驚きと感動を地元・十勝へ

ExclamatioN（帯広市）代表 黒田勝史さん



チーム結成のきっかけを教えてください。

当時農家の青年団に所属していて、毎年夏にイベントをやっていたんだけど、自分たちだけで集まても面白みがないなと思って、市の紹介で地域の若い人たちが集まる団体と一緒にイベントをやったことがきっかけ。「せっかくだから一緒に何かやろうよ」と。ちょうどYOSAKOIソーランがブームというか、第6回くらいのころ。その一人が「YOSAKOIやろうよ」って話をもってきた。もともと本祭に出よう、だけでなく「YOSAKOIに出て得られるものが絶対にあるから、そこでまた十勝で新しいことをやっていこう」というのがビジョン。普及振興会（当時）やほかのチームにも教えてもらいながら、初参加（98年）は約100人で参加しました。



▲第7回（1998年）初参加の記念写真



▲チームの象徴「！」マークが鳴子に

踊りは縁があって、仙台で活動している劇団の人々が振付してくれた。皆で頑張って練習して、本番を迎えたときの緊張感と、終わったときの達成感。初参加だったけど賞もとれて皆涙して感無量だった。

「地元への返していこう」の想い

—これまで30年弱続けてきた原動力はなんでしょうか。

僕の原動力はやっぱり、立ち上げたときに右も左もわからずいろんなところに飛び込んで支援してもらって、「なってない」と怒られましたけど、そういう人がずっと長いこと支援してくれた。「お前らが祭りに出て地元でなんかしようということへの応援だから」と言ってくれたことが今でも、ずっと裏切れないというか。だから毎年踊りだけじゃなく、地元で返していこうとずっと思っている。

第10回の本祭が終わった後、「ここで一度、地元で新しいことをやろう」となって。第11回はうちは参加していないんだよね。結成4年、地元で新しいことをやるためにそっちに力を注ごうと。そこで帯広三大祭りの一つ「平原祭り」の初日を飾る「夢降夜（ゆめふるや）」というのを作った。2002年はほかにも市民ミュージカル（おびひろ民ミュージカル、通称：obiカル）を立ち上げました。

—obiカルについて教えてください。

夏がYOSAKOIなら冬になにかと考えたときに、仙台の振付の先生が向こうでミュージカルをやっていて、当時帯広にはそういうのはなかったし「面白そう」と。一般公募をして、チームメンバー以外に30人くらいは来たかな。

当初3年のストーリーを立てていて、1年目は勉強期間。仙台の劇団と合同で、向こうが主導で舞台を創り上げていくノウハウを学んでいく。2年目は自分たちの考えたものを仙台の人たちに後押ししてもらしながら。3年目に完全に自分たちで主導するというプランをたてて、これが市から補助金ももらえて、実現した。大抵これで終わっちゃう

んですよ、補助金がなくなると。でも、ここからが僕らの本気を表すところだなと、4年目から自主的にお金集めからすべて考えて、今に至っています。obiカルは今年で21回目。地域における市民参加型の文化活動として、やっぱり毎年公演を目指して続けていきたいですね。



▲obiカルの前回公演の様子～今年は12月23日(土)・24日(日)の2日間上演



▲若者が中心となり運営する「夢降夜」は五穀豊穣を祈る神輿と踊りの祭典

結束力とフットワークが武器に

—私たちが地域でできることってなんだと思いますか。

YOSAKOIをやっていることで、（地域に）出でていきやすくなる。平原祭りの夢降夜もそう。地域の人たちも受け入れやすくなる。なんだろ？ね。YOSAKOIやっている人たちって、そういうときの結束力ってすごいなって思う。「祭りやるよ」といったらほかのチームも来てくれて。

—そういったパワーがある。個人じゃなくチームだからそういうことができる、と。

うん。損得を考えないよね。「いいな」と思ったら、みんな直感的に協力してくれる。街を盛り上げようという構えがあるのかな。これは人から言われてもできないこと。うちのメンバーも、YOSAKOIをやっているから自発的にいろんな活動ができる。フットワークが軽くなるのはひとつ魅力だよね。

YOSAKOIソーランの可能性

例えば子供たちが「このチームに入って踊ってみたい」と思うような、そういう魅力のあるチームでありたいよね。YOSAKOIソーランだって50年続いたら立派な文化になる。札幌のこの祭りの組織っていうのは全国でもやっぱり珍しい。大きい祭りって官の主導が多いけど。これはやっぱり一つのモデルなんだよね。祭りのモデルもあるし、社会のモデルもある。すごく可能性がある。なにかあったときの動員力や、協力し合うパワーはすごいんだと思う。

祭りに出会ういろんな職業の人との交流もおもしろい。そこで知り合って「新しいことをやってみよう」という起爆剤になったり。絶対おもしろいと思うな。祭りの場では気軽に話すけど、実はすごい人だったりとか。意外と日本を変える力があるんじゃないかな。

PROFILE

〈チーム：ExclamatioN（えくすぐらめしょん）〉

1997年結成。チーム名の由来は驚きと感動の意味を表す「ピクリマーカー！」。チームロゴのはじめと終わりの「E・N」の大文字はEast、Northの頭文字から北海道の東を強調。

〈回答者：黒田勝史さん〉

帯広市愛國町在住、1972年生まれ。

1997年、仲間とともにチームを立ち上げ、1999年より代表を務める。職業：農業



TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）
かっこかり

地元・石狩の活気と賑わいを 未来を担うこどもたちへ

石狩流星海（石狩市）代表 五十嵐悠哉さん



世代を超えたひとつの「家族」

—どんなチームですか？

幅広い世代が参加しています。子どもから大人まで、年齢制限は設けていないので。世代を超えて一つのものをつくるというところが、このチームのベースだと思います。

—ご自身はいつから参加を？

2007年、高1からで、2017年から代表を務めています。最初は踊りに魅力を感じて入ったけど、実際に入ってみるといろいろな人との関わりがあって、世代が10・20上の人もいれば、下の人もいる。学校になかなか行けない子など、様々なバックボーンを抱えてる中でも、踊り一つで家族のように楽しめる活動ってのはいいなあ、と思って。その子のお母さんに「流星海に入行ってから明るくなった」と言つてもらえたのはすごくうれしかったですね。



▲3世代が一つに



していたけど、正式に「やるぞ！」って会議にかけたのは、6月の本祭が終わってから。「今年の夏もイベントありません。このまま活気がなくなるくらいなら、もう自分たちでお祭りつくって街を盛り上げていきませんか」と。そこからは半ば強引にすすめちゃいました。準備はめちゃくちゃ大変でしたけど、「やめたほうがいい」と言っていた人も、終わってみたら180度変わって。「やってよかったよね」「来年もやったほうがいい」と言ってくれるようになりました。



▲チームのこどもたちと一緒にポスター配り



▲昨年の「カムチャプ祭り」会場の様子

—ご自身は実際に祭りを終えて、どうでしたか。

めちゃめちゃ楽しかったです。自分たちの地元にこれだけの人を集めて、これだけ来てくれるチームさんがいて、出店の皆さんのがいて。このお祭り本当に人できるなって思つたんですよね。それができるこの石狩流星海というチームっていいなって思つたし、街に活気を生み出すことができてよかったです。コロナ前ぶりに会う人もたくさんいて、いろんな人と繋ぐお祭りであったっていう点もすごく良かったなって思っています。

—2回目の今年はどんな祭りにしたいですか？

今年は昨年から進化してステージを作ります。どうしてもステージのあるお祭りをつくりたくて。ステージがあることでパフォーマンスが映える。理想としては、そこで踊る僕らを見て、子供たち、次世代に繋がっていってほしいという夢は持っています。僕が砂川の祭りを観てかっこいいと思ったように、僕らが作ったお祭りを地域の子供やうちの娘たちが見て「かっこいいな」「石狩盛り上げることってかっこいいな」と思つて、次の世代が祭りをつくってくれたら嬉しいなって、そんな妄想をしています。

—これからチーム、どんな姿を描いてますか？

チームとしての目標はやっぱり石狩を盛り上げる、この1点に尽きると思ってるんですね。今回は「祭り」というアプローチで盛り上げてますけど、それ以外でもいいんです。とにかくYOSAKOIソーランという踊りを使って、その中で得たノウハウだったりご縁であったり、そういうものを使って地域をどんどん盛り上げていくような団体になりたいと思っています。

PROFILE

〈チーム：石狩流星海（いしかりりゅうせいかい）〉

1996年の七夕（7月7日）に結成。世代を超えた仲間たちと地域に根付く活動に力を入れている。2005年、石狩市より「いしかり観光大使」第1号に任命。道外の姉妹都市などでも演舞を披露。

〈回答者：五十嵐悠哉さん〉

1991年、札幌市手稲区生まれ。2007年からチームに加入し、2017年からチーム3代目の代表をつとめる。現在は石狩市在住。



—祭りをやりたいと言った時の周りの反応は？

祭りをつくった経験のある初期のメンバーは「大変だぞ、やめておけ」という感じで。「なめんじゃねえ！」みたいな（笑）親心もあるんですけど。ほかは、「え？」「何言ってるの？」って感じでしたね。一部の役員とは話はし

TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）

新たな大賞チームとして まちの誇りになるチームへ

REDA舞神楽 総代表 吉村朗さん

—チーム結成のきっかけを教えてください。

ボランティア団体で仲間になった数人で結成しました。金崎さん（現：千葉よさこい連絡協議会代表）が発起人になって、よさこいを通じて地域貢献できないかというところからはじまったチームです。金崎さんが札幌を観て「なんじゃこりゃ」と。「吉村君一緒にやらないか」と。広報でメンバーを募集したけど、最初は10人。そのころ、千葉県にはよさこいのチームが1チームしかなくて、舞神楽が2チーム目。その後いくつかのチームができて、「CHIよREN北天魁」として合同で参加したのが2001年で、REDA舞神楽としては2003年から参加しています。



▲2003年の
REDA舞神楽。
作品テーマは
「未来への希望」
(チーム提供)

—どんなメンバーが参加していますか？

札幌に来られなかった踊り子を入れると、スタッフ含め150名くらいはいるんじゃないかな。メンバーは関東各地からきていますが、船橋在住が、ざっくり6割強くらいいかと。今年の地域貢献点の調書で改めて気づいたんだけど、チーム内結婚や移住してきた人がたくさんいて驚きました。うちのチームのために船橋に移り住んだ人がそこそこいて。こんなことも地域貢献なんだなと改めて感じましたね。

押し付けるのではなく自発的に

—チームとして大事にしていることは？

立ち上げの経緯もありますが、やっぱり最終的な目標は地域貢献で、YOSAKOIをひとつの手段として貢献していくたい、と思っています。

これは個人的な見解だけど、ただ「ゴミ拾いしようよ」といってもみんなこない。でも、楽しいことをしたあとに「ゴミひろいをするぞ」というと、みんなやる。それを以前の活動で実感して「YOSAKOIだったら楽しいからみんなくるだろうな」と。踊った後に「祭り会場汚れてるからゴミ拾いするぞ」というとやるんですよ。そういう活動をやりながら、老人ホームでの演舞なんか昔からずっとやってきています。

—学校での踊りの指導もしているんですね。

うちのチームには小学校教師が多くて、先生たちが企画して「クラス対抗よさこい」をやったりしました。曲は統一で、振付や衣装をクラスごとに手作り。2か月くらい準備して、審査もして。各クラスにメンバーが二人ずつくらい指導にいきました。その時おもしろかったのが、優勝の子はすごくよろこんだけど、2位の子はぜんぜんよろこばなかったんですね。優勝を目指して意見を出しあって一つの作品を作って。2位の男の子が賞状をもらうときの顔がもう悔しそうで。ああ、こどもでもそうなんだ、と。印象に残っています。



—今年から導入した地域貢献点については、どうとらえていますか？

もともと自発的にやっていたのに、こういう評価が導入されることで、「やらされている感」がでちゃうのかなという懸念はちょっとありましたね。メンバーには（地域貢献について）「そういう気持ちでやっているんだよ」ということはたまに話しますけど、それがメイン（主目的）になる踊り子はちょっと気持ち悪いなと。僕らみたいのがところどころでチームをぐっと締めるためにやるけれども、チーム全体で「ゴミ拾いするぞ！」が目的になるのは気持ち悪いな、本音ではないなとおもう。うちのチームも少し目を離すとそういう方向（活動の目的がすりかわる）になってしまう時があって、ぐいぐいと舵をとりなおすというか、ぎりぎりの攻防はもちろんあります。千葉でも地域貢献なんて考えていないようなチームもあるが、必ず考えなければいけないわけではないし。地域貢献は人に押し付けるのではなく、「舞神楽ではこうしているよ」というのを風の便りで伝えて、自然と一緒にできるようになればいいのかなと思います。

船橋を代表する団体の一つとして

—地元の反応はどうでしたか？

過去に2回準大賞をとったけれど、そのときは全然違いますね。船橋市はプロバスケチーム「千葉ジェッツ」があったり、市立船橋高校もサッカーの強豪だったりするんだけど、今回大賞をとったことで、（そういった地域を代表する団体）その一つになれたのかなと感じています。

—準大賞をとったとき、踊り子の1/3が50歳以上だったときいて驚きました。

うちのチームでは、年齢が上の女性たちを「お姉さま」と呼んでいて、準大賞をとったときは約1/3くらいいたんだけど今は1/5くらいまでになってしまって。コロナの影響が大きかったです。お姉さまたちはずっとチームを支えてくれてきていて、踊りも一生懸命だし、衣装や大道具をつくったり、率先してやってくれていた。若い人たちが「忙しいから」ってなっちゃうんだけど。だから姉さんたちがいるうちに絶対に大賞を取りたかったんです。（今年参加の踊り子最高齢はなんと82歳！）

—これからどんなチームになっていきたいですか？

今回大賞をとって、「船橋の誇り」と言ってくれる人が数人いたんですね。そう思ってくれる人たちを増やしていきたいと思っています。

PROFILE

〈チーム：REDA舞神楽（れだまいかぐら）〉

2000年に千葉県船橋市で結成。「人間大好き愛情集団！」をモットーに、幅広い世代が参加し活躍している。

〈回答者：吉村朗さん〉

千葉県船橋市出身。57歳。

REDA舞神楽発足から23年、団長→

代表→総代表と肩書を変えました。

よさこいの発展を心より願っています。

大賞受賞時の写真（左から2番目が吉村さん）▶



TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）

地域の応援を力に、 まちに祭りの元気を還元

澄川精進螢会 会長 日向寺良子さん

祭りの感動を自分たちの地域で

—チームの立ち上げについて教えてください。

第5回（1996年）の祭りを見てすぐあとにチームを立ち上げ、第6回から参加しています。平岸会場でやっているのを見て「澄川でも！」と思いつき動き始めました。初めての参加はなんと192名で参加。テレビの取材も受けました。

それと同時に、会場の運営も始めました。「平岸に会場があるのに、なぜ澄川はないのか」と本部に問い合わせたら、「ぜひやってください」と言われて（笑）自衛隊駅近くの東光ストアの駐車場で10年、真駒内駐屯地内で4年開催しました。



▲澄川会場初開催の様子



▲2004年・第13回本祭での澄川会場

—どんなメンバーが集まってチームを作ったのですか？

立ち上げの際は、大人がほとんど。町内会などで様々な活動をしている人が集まって。踊りたいというだけじゃなく、地域を盛り上げたいと集まった人が多かった。だからここまで、細々だけつながっているんじゃないかな。『踊りたい』というだけじゃ、ここまでつながらなかったと思います。今は子供たちも多く参加しているファミリーチームで、30名くらい。楽曲は過去のものをつかって、振付はチームを卒業した大学生がつくってくれた。地域の皆さんに応援してもらいながらやっています。

地域と密着したチーム運営

—澄川の地域の応援、すごいですよね。

チーム立ち上げの当初から、年に数回「ほたる通信」という会報を応援してくれている企業や地域の人たちに向けて発行しています。



▲(手前)周年記念会報誌 (奥)ほたる通信



▲2022年・第31回本祭での「30周年感謝の集い」。祭りの普及振興への貢献を表彰



▲2019年・第28回メインステージの様子

—チーム名の由来を教えてもらえますか？

澄川には「精進川」という川があって、昔は蛍がいた。定山渓鉄道（1969年廃線）の駅があって、周りには田んぼがたくさんあって、蛍が飛んでいた。チームを結成するときに、「再び澄川に蛍を呼び戻そう」という想いを込めて、「澄川精進螢会」と名付けました。

参加者に寄り添った温かい会場に

—今年、13年ぶりに会場が復活します。

結局、祭りが好きな人が集まっていて。踊りがきっかけでチームができたけど、やっぱり祭りごとが好き。地域のいろんな活動や祭りにも携わっています。

澄川の地域のひとたちに、地元でYOSAKOIソーランを観てほしい。それが地域の活性化になると思っています。会場をやらなかつた間も、地域の人が応援してくれていた。会場の再開にあたっても、地域に応援してもらえる確信がありました。

—どんな会場にしたいですか。

まずは地域の人に身近に楽しんでもらうこと。それから、チームに寄り添った会場運営をしたいと考えています。お弁当を食べるならブルーシートを用意したり、雨が降ったらテントを張ったり。チームを持っているから、その気持ちに寄り添って温かい会場にしたいです。中心部から離れているから、来てみて、のんびりゆったり、楽しかったと感じてもらえる会場にしていきたいと思っています。

注目

知っていますか？
澄川会場名物「ほたるまんじゅう」

かつての澄川会場開催時、地元の和菓子店がYOSAKOI会場限定商品としてつくった「ほたるまんじゅう」。和菓子店の店主が亡くなられてからは、澄川発祥の菓子店「ろまん亭」さんがその味を引き継いでくれました。ミルク味の餡がやさしい甘さで、今ではろまん亭の隠れた人気商品なんだとか。ぜひ、みなさんもご賞味あれ！

PROFILE

（チーム：澄川精進螢会（すみかわしょうじんほたるかい））
1996年結成、1997年・第6回YOSAKOIソーラン祭りに初参加。初参加と同時に地元での「澄川会場」の運営も担う。現在は子供から大人まで幅広い世代が参加し、地域の祭りなどにも積極的に参加。

〈回答者：日向寺良子さん〉

静内町出身。高校時代から澄川に在住。
チーム立ち上げ時に発起人代表を務める。
YOSAKOIソーラン祭りでは1998年、札幌南支部の結成に携わり、初代支部長に就任。
防災活動やご当地食堂の運営など、地域の様々な活動にも取り組んでいる。



TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）かっこかり

人と人をつなぎ、笑顔になれる場所をつないでいく

平取義経なるこ会（平取町）代表 松澤以久子さん



チーム結成のきっかけを教えてください。

当時（1995年）はYOSAKOIソーランが大流行だったでしょう。全道にチームをつくろうという時期だった。娘が習っていたジャズダンスの先生が『門別沙乱舞連』の振り付けをしていて、「YOSAKOIって楽しいよ」と教えてもらった。仲間内で地域の祭りで踊ったりね。同時に、町の社会福祉協議会の行事に『三石なるこ会』が踊りに来て。それを見たある人が平取にもチームを作ろうとなって（平取義経なるこ会が）結成された。私は踊るつもりなかったのに、色々あって、1年目から踊りを教える担当になっちゃった。（数年後に代表に就任し20年以上務める）

一今はどんなメンバーが集まっていますか？

今は30～60代。高校生もいたけど、この3月で卒業・進学で町をでちゃう。でも、30代のママさんが4人、新メンバーで加入！YOSAKOIやってみたかった、って言ってくれて。まだメンバーは発掘中。60代の新人も2人！でも、進学でやめた人や、結婚・出産、転勤で町やチームを離れてしまう人も多くて、まだマイナスなんだよね。

一立ち上げ当時とは人口全然違う？

今は4600人、当時は6～7000人はいたんじゃないかな。（1995年・約6900人）

一街の状況が全然全然違いますね。

そうなの！みんなからほんとによくやってるねと言われるのよ。

町で唯一のチームとして

一町でチームが担っていること、たくさんありますよね。

札幌で踊るのがスタートで、帰ってきてからが忙しいんだよね。呼ばれたら断らないから。行ったらみんな喜んでくれて、その顔を見るところも楽しくなっちゃうから。年に10回以上は行っているかな。小さい町だけど、地区ごとの祭りもあるし、福祉施設や行事とか。

ケアハウスから「ひな祭りに合わせて昼食時に踊ってくれないか」と言われたときは、「昼休みならいけるかも」と近所で仕事してるメンバーや農家の人に頼んで、仕事の合間に集まってババっと着替えて、踊って、歌も披露したりして、笑わせてね。みんな自分のごはんは食べずにそういうことしたりもしてる。

一花植えの活動も続けていると聞きました。

町がやっている「花いっぱい運動」に15年以上参加しています。いろんな団体がそれぞれ受け持ちのエリアに毎年花を植えるの。毎年みんなでやっている。うちのメンバー、ちゃんと集まってくれるんだよね。仕事とかでどうしても来られない人もいるけど、理由もなく来ない人はいない。「あの人こういう時しか来ないよね」みたいな人がいない。



▲花植えをするメンバー



▲平取中学校の3年生に演舞指導

家でも職場でも学校でもない場所

一YOSAKOIソーランのチームが地域で果たす役割ってどんなことだと思いますか。

やっぱり、人間形成にはすごく役立っていると私は思ってます。親や職場の上司とか、そういうもの以外の場所があるということは、人の幅のプラスになると思う。結成当時から子供たちも参加していて。人との関わりって大事で、うまくできる子もそうでない子もいて、学校以外で成長できる場所だなと。子供たちが私のことを「先生」と呼ぶから、「先生じゃなくて“おやびん”で呼んで」って言ってたの（笑）。そういう子たちが、大人になって、出産などで一度離れても、YOSAKOIに戻ってきててくれる。うちのチームは、イケイケな子たちばかりでなく、けっこうおとなしめの、表現が下手な子が多いの。だけど、踊りをちゃんと練習して、札幌に行く頃にははじけている。YOSAKOIなんて、来ても来なくてもいいのに、来たいから来ているでしょ。そういう子たちに慕ってもらうと、やっていてよかったとおもう。いまチームを支えているのは、そのころ子どもだった30代のメンバーです。

一いまも“おやびん”？

いまはそんな風に呼ぶ人いないです（笑）もう子どもじゃないし。

人とのつながりを大切に

（この場所を）つないでいきたいけどね。仕事しても気持ちが荒むことってあるけど、YOSAKOIをやって少しでも晴れたらいいなと思っているけど。そういう場所だと思ってる。それでなかったらやってないわ、こんなんに！

（笑）踊りと歌が好き、だけじゃこんなにやってられない。YOSAKOIって、そういう場所。見てる人からはわからないと思うけどね。札幌に行って踊ってるのは、ただの結果。そこにはいくまでの過程が大事なんだよね。

一これからYOSAKOIソーラン祭り、どんなふうになつていったらしいと思いますか？

時代が変わるので乗り切れないダメになってしまいます。半分新しいこと、半分は古いことを守っていくことがいいんじゃないかな。根っここの部分は残しつつ。YOSAKOIの根っこは、「人とのつながり」。それから、人を楽しませたい、笑顔にしたい、自分も笑顔になりたいということ。

（いろいろ言ったけど）YOSAKOIってそんなカタイもんじゃないから。踊りだから。まずは自分たちが楽しんでないと、人も笑顔にできないしね。

PROFILE

〈チーム：平取義経なるこ会（ひらとりよしつねなるこかい）〉

1995年結成、1996年・第5回YOSAKOIソーラン祭りに初参加。地域のチームとして長く活動を続けるアットホームなチーム。現在は日高管内で唯一の本祭参加チームである。

〈回答者：松澤以久子さん〉

平取町出身。チーム1年目から参加し、現在は代表を務める。YOSAKOIソーラン祭りでは日高支部長としても祭りの普及振興に尽力。2007年より平取町議会議員。



TEAM INTERVIEW

まちとチームとYOSAKOIソーラン（仮）
かっこかり

「ひとの魅力は、まちの魅力」をモットーに
地域で一番愛される市民団体へ

恵庭紅鶴（えにわべにがらす）事務局長 相馬伸太郎さん



恵庭市唯一の市民チーム

—どんなメンバーが集まったチームですか？

恵庭市民を中心に、約60名の踊り子と約60名のスタッフ（運営役員、父母の会員など）で構成されています。小学生から60代まで、幅広い世代のメンバーが活躍しています。

—活動の中で大切にしていることはなんですか？

恵庭市内で活動する際は、市民のみなさんとにかく楽しんでいただくことを念頭に置いています。お祭りやイベントで演舞することが多いので、その場・時間が賑やかで特別なものになるように、と意識しています。恵庭市外で活動する際は、恵庭の元気と賑わいをPRすることを意識しています。演舞が活動の中心のため、観光名所や名産品のPRができるわけではありませんが、私たちの演舞を通して、恵庭市民と街の魅力を伝えることを第一に活動しています。

「ひとの魅力は、まちの魅力」

チームの活動理念に、恵庭の活性化、地域市民交流、青少年の健全育成を掲げています。特技の踊り・お祭りでの経験を生かして、市内の幼稚園や小学校を対象に演舞指導を行っています。指導活動だけではなく、「えにわっ子まつり」という、子どもも縁日も主催しています。日頃、市民の皆さんから沢山の応援をいただいているので、その恩返しをしよう！とはじまったイベントです。



▲2022年夏の「えにわっ子まつり」。延べ400人の子どもたちが参加した。



▲3年ぶりの開催となった「わくわくフェスティバル」。

—8月末には「第23回えにわYOSAKOIソーランわくわくフェスティバル」を開催しましたね。

チーム発足と同時に始めた祭りです。状況の変化に応じてできることをできる限りやろう！と3年ぶりに再開しました。全道から21チームと、市内のパフォーマンス団体が2団体参加、約5,200名が来場し、大きな賑わいを生み出すことができました。恵庭市民の皆さんに、2年間楽しむことができなかつた、夏祭りの楽しさ、賑やかさを感じもらえる場を作りたくて、1から組み立てなおしました。祭りのノウハウも、企画運営のためのつながりも、この23年間の活動の中でチームの力として積み上げることができた賜物だと感じています。多くの市民や子供たち、踊り子たちであふれたクライマックスは大きな感動と達成感につながりました。

あなたが思う
**YOSAKOI
ソーランの魅力**
教えてください！

「誰でも街のスーパースターになることができる！」と思っています。例えばスポーツでその街一番の選手になるには、高い技術と大きな努力が必要になりますが、人に元気と感動を届けるYOSAKOIソーランは、子供でも、主婦でも、お父さんでも、だれでも自分の頑張りと仲間の頑張りを合わせることで、人を感動させることができます！」

地域のコミュニティとして

—幅広い世代のメンバーが参加し、学校や会社、家庭とは違う居場所・コミュニティとなっていることが印象的です。印象に残っている出来事などはありますか。

2018年9月、北海道胆振東部地震です。恵庭も大きな揺れとともにライフラインが停止。復旧のめどがなかなか立たず、多くの人が不安を感じて過ごしていました。そんな中、チームの連絡網が助け合いの声掛けで動き続けました。「あそこのお店、買い物できるよ！」「あそこのガソリンスタンド空いてるよ！」「うち、電気通ったから充電しにいで！」「お風呂入れるよ！」。いち早く電気が復旧した、運営役員の一人が経営する自動車整備工場をお借りして、メンバー向けに炊き出しをすることもできました。

単身者であったり、恵庭に来たばかりでなじみが少なかったりと、頼れる人がなかなかいないメンバーもいます。困りごとでお隣さんに助けて！と言えなくとも、2丁先のメンバーの家は知っている！頼れる！踊りだけではない、地域のコミュニティとしての役割とその強さを痛感する出来事でした。



▲胆振東部地震の際の炊き出しの様子



▲子どもから大人までが一つのチームに

—これからチームの目標、目指す姿を教えてください。

恵庭市で一番愛される市民団体になることです。恵庭市民70,000人が、私たちの活動を通して、YOSAKOIソーラン祭りへの興味を持っていたらしく、YOSAKOIソーランを通して感動と喜びを沢山もらってきた私たちにできる恩返しだと思っています。

PROFILE

〈チーム：恵庭紅鶴（えにわべにがらす）〉

市民参加型の地域活性活動を新たに創出したい、と1999年に発足。「ひとの魅力は、まちの魅力」をモットーに、演舞を通じて恵庭の元気と賑わいを、多くの人に届けることを主軸に活動中。

〈回答者：相馬伸太郎さん〉

チームで事務局長と演舞でのMCを担当。小学校6年生の時にYOSAKOIソーランと出会い、ジュニアチーム、まちのチーム、学生チームを経て、2012年から恵庭紅鶴に所属。チームの活動のほか、地域のイベントやお祭りの運営にも参加。江別市出身、恵庭市在住。35歳。



祭りを支えるチームネットワーク 道内15支部が活躍中

この祭りの特徴のひとつは、主催者と参加者が一緒に祭りを創っていること。道内のチームはエリアごとに「支部」をつくり、地域での普及振興に取り組んだり、交流を育んでいます。



「支部」は北海道内で活動するチームによって結成されています。年間を通して活動し、各地域で「支部大会」を開催したり、地域の祭りに協力するなど、そのエリアでの普及振興を担っています。また、エリア内のチームで交流を深め、チームづくりや地域活動についての見識を深めるなど、チーム・リーダーの育成やコミュニティづくりの基盤となっています。

支部の運営は、参加者（チーム）が行います。各支部ごとに支部長と呼ばれる代表者と、副支部長や事務局などの役員を置き、定期的な会議や意見交換、支部大会などのイベント運営にあたります。



学生 24 チームも活躍中！

大学生や短大生が中心となって運営する学生チームは全道に24チーム。「学生支部」は地域を跨いた学生チームで構成され、各チームは地域の支部にも加入して活躍しています。

各地で支部大会を開催

YOSAKOIソーラン祭りの賑わいを地域に

6月・札幌でのYOSAKOIソーラン祭りが終わると、夏～冬にかけて道内各地で「支部大会」が開催されます。支部大会は各支部が中心となって運営し、単独自主開催のものから、地域のイベントと共に実施するものまでかたちは様々。全道のみなさん、地域でのYOSAKOIソーランを楽しんでいただいている。



▲北斗市で開催された「第20回道南大会」。道南大会は毎年完全自主開催で実施、夏の道南の風物詩に。

参加者フォーラム

参加者がつくる、チームと祭りの未来を考えるフォーラム

参加者同士や参加者と主催者の意見交換の場、またチームづくりの学びの場として、毎年「参加者フォーラム」を開催しています。フォーラムは各支部の持ち回りで開催し、企画から運営まで支部が主体に。全道から集まったチームのリーダーたちが、祭りの課題や未来について議論したり、チーム運営の手法を学んだりします。



▲グループディスカッション（2019年・函館市）



▲地域活動についてのパネルディスカッション（2023年・恵庭市）



▲ゲストを招いての基調講演（2022年・旭川市）



▲交流の様子（2018年・洞爺湖町）

ジュニアキャンプ

次世代を担うこどもたちの交流と体験の場所

祭り、そして北海道の未来を担う次世代の交流の場所として、毎年ジュニアキャンプを開催しています。YOSAKOIソーランというつながりで集まつた中学生以下の子どもたちが、普段できない経験をし、チームの垣根を越えた友情を育みます。

2013年～十勝支部・広尾町
2017年～空知支部・栗山町



▲川で魚とり（2022年）



▲里山のはたらきを学ぶ（2023年）



▲夕食は毎年恒例BBQ！



▲集合写真（2023年）

通年の支部活動

支部は上記のようなイベントの開催・運営だけでなく通年で活動し、地域での普及振興の要となっています。支部内チームの交流や課題の共有、困ったときのサポートなど、地域ごとに横のつながりがあることで「YOSAKOIソーランの仲間」として支え合っています。また、年におよそ6回開催される「支部長会議」では、各支部の代表者が集まり、組織委員会事務局とともに祭りについての意見交換や各地域の状況の共有などを行っています。



▲毎年11月には各支部で次年度の本祭の参加説明会を開催。支部を起点に、各チームとのコミュニケーションも継続的に行ってています

全国・世界に広がるYOSAKOIソーラン

日本全国、世界各国にもYOSAKOIソーランの輪は広がります。
各地での祭りの開催や、チームの活動が行われ、
地域を超えた交流が生まれています。



日本国内での広がり

高知県高知市で1954年から開催される「よさこい祭り」。
この祭りの熱気に魅せられた若ものたちによって、1992年、
YOSAKOIソーラン祭りは誕生しました。

それをきっかけに、「よさこい」「YOSAKOIソーラン」は全国
に波及。各地で次々とよさこい・YOSAKOI祭りが開催されることとなりました。現在では、全国200以上の祭り・イベント
が開催されています。

国内のおもな祭り

北海道	YOSAKOIソーラン祭り
宮城	みちのくYOSAKOIまつり
福島	うつくしまYOSAKOI
茨城	かみす舞っちゃげ祭り、常陸国よさこい祭り
埼玉	関八州よさこいフェスタ
千葉	ちばYOSAKOIまつり、黒潮よさこい
東京	原宿スーパーよさこい、東京よさこい ドリーム夜さまいまつり
神奈川	横浜よさこい祭り、湘南よさこい祭り
静岡	よさこい東海道



愛知	にっぽんどう真ん中祭り
三重	安濃津よさこい
大阪	泉州ええじやないか祭り、こいや祭り
兵庫	神戸よさこいまつり
石川	YOSAKOIソーラン日本海
高知	よさこい祭り（1954年～）
福岡	ふくこいアジアまつり
長崎	YOSAKOIさせぼ祭り
熊本	九州がっ祭 火の国YOSAKOIまつり
鹿児島	大ハンヤ鹿児島春祭り

海外への広がり

世界各地とも交流がひろがり、現在、世界30以上の国や地域でよさこい/YOSAKOIソーランのチームが活動したり、現地でイベントが開催されるなどしています。

世界
30以上
の国や地域



海外とのおもな交流内容

◆：訪問団派遣 ●：チーム参加 ○：チーム参加（映像）

地域	交流内容	地域	交流内容
台湾	2003年より20年連続相互交流	ニュージーランド	2008年、2018年チーム参加
中国	1999年瀋陽、2007年北京、2010年上海	アメリカ	2008年カンザス州チーム参加
	2016年香港、2017年マカオ訪問		2007年テキサス州チーム参加
	2000~2002年瀋陽チーム参加		2012年ロサンゼルス訪問
ドイツ	2002、2006年ミュンヘン訪問	ブラジル	2008、2012年チーム参加
ロシア	サハリン、ノヴォシビルスク訪問		ブラジルYOSAKOIソーラン祭り開催
	サハリンチーム過去6回参加	韓国	原州ダイナミックフェスティバル
オーストラリア	2002年ケアンズチーム参加		パワフルテグフェスティバル（大邱）交流
	2006年シドニー訪問	ベトナム	2018年チーム参加、2023年訪問
ケニア	2008年チーム参加	タイ	YOSAKOI in タイランド開催、複数回訪問
シンガポール	2002年チーム参加		

20年以上続く 台湾との相互交流

台湾とYOSAKOIソーラン祭りは2003年から相互交流を行っています。台湾の旧正月を祝う「台湾ランタンフェスティバル」へのチーム派遣や、本祭への台湾チームの参加を軸に、双方の観光PRや台中市のイベントなど、踊りを通した幅広い交流を続けています。



▲2024年本祭に参加した台湾チーム（台南应用科技大学）



▲台湾ランタンフェスティバル

[2024年・第33回本祭] 10か国・24チームが映像参加

2022年から実施している「映像参加企画」。世界どこからでも参加できる企画として、2024年は海外から10か国・24チームが参加！「よさこい」が盛んなベトナムや「ブラジルYOSAKOIソーラン祭り」が開催されるブラジルからは複数のチームが参加し、世界に広がるよさこい・YOSAKOIソーランが一堂に会しました。

【映像参加企画参加国】
チェコ共和国・アメリカ・タイ
ドイツ・オランダ・ベトナム
台湾・韓国・インドネシア
ブラジル



HISTORY



第1回の様子

第1回開催
10チーム・千人が参加
観客動員数20万人



ソーランパレード

初の全国テレビ放送を実施

「北のふーどパーク」開始

「ソーランパレード」や
「学生ソーラン」といった企画がスタート

過去最多となる408チームが参加

- 道内のテレビ全局が祭りの特別番組を放送
- 中国（瀋陽市）から初の海外チームが参加
- 大通公園で爆弾事件が発生、この年の審査は中止に

「地域伝統芸能大賞」地域振興賞受賞

「JTB交流文化賞」創設記念メモリアル賞受賞



ワオドリススクエア

2006
(第15回)

2005
(第14回)

2003
(第12回)

2001
(第10回)

2000
(第9回)

1998
(第7回)

1996
(第5回)

1992
(第1回)

「日本イベント大賞」部門賞受賞

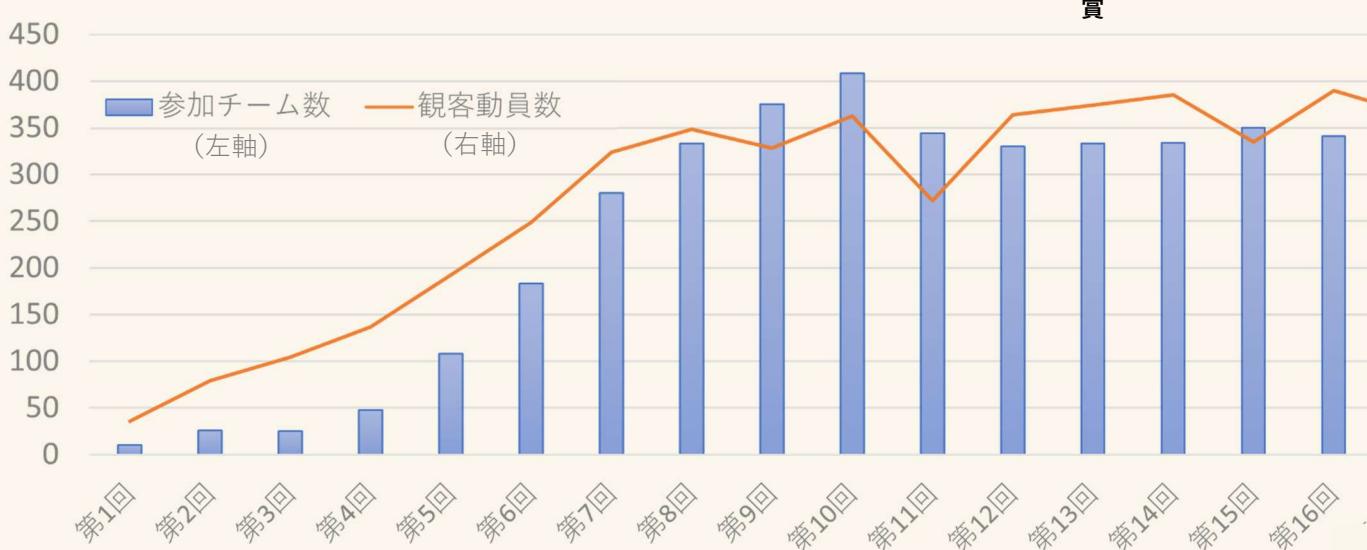
支部大会スタート

- 参加チームが百チームを超える
(北海道外からも9チームが参加)
- 審査が2段階となりファイナルコンテストを開催
- 大通南北パレードが第1回以来の復活
- 現在の5日間開催に

- 「サントリーエリア文化賞」受賞
- YOSAKOIソーラン祭り組織委員会発足

参加者フォーラム開催（十勝）

札幌ドームオープニングイベント







YOSAKOIソーラン祭り コミュニケーションレポート [2024年9月版]
発行：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会